

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域に住み続けたいとの願いが実現できるように、その人らしく元気に安心して暮らしてもらえるように職員全員で実践しています。振りかえられるように掲げてあります。	法人の理念と15項目の信条は法人全体会議の際に声に出して意識づけしており、当たり前のこととして忘れないよう心がけている。カンファレンスなど話し合いの際には常にグループホームの理念に立ち返り、その人らしさについて職員全員で事例を挙げながら話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事等への参加や、散歩中、皆さんから声をかけてくださったり、地域の方から野菜を頂いたり交流が少しずつ増えています。	隣組の一員として地区の防災訓練等に参加している。近所の方が野菜や漬物を持ってきて下さり大変助かっているという。利用者の高齢化により地区の茶話会に出かけることは難しくなっているが、地域のボランティア(ほほえみの会)の来訪時には、利用者はおもてなしの気持ちをもって会話を楽しんでいる。法人として地元の小学校でサポーター養成講座を実施し、後日、受講した児童がホームを訪れた時にオレンジリングを手渡し交流している。その他にもクリスマス会や餅つきなどで一緒に楽しみ児童とのふれあいを継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアや人材貢献として実習生の受け入れは積極的に行っている。実習生の受け入れは1回2名を限度としご利用者に迷惑がかからないように配慮しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では意見交換を通じて、地域の方にグループホームを知って頂く事から始めています。助言や貴重な意見をたくさんいただいています。	隣接の認知症デイサービスと合同で年6回開催し、家族、地域の方(隣組)、地区役員、民生委員、福祉委員、長寿会会長、ボランティアの会代表、市職員、地域包括支援センター職員が委員となり事業報告や行事予定発表のほか、地域の方に役立つように、法人内の訪問看護や配食サービス、認知症の知識などの情報などを伝えている。今年度は行方不明者捜索模擬訓練を実施し、その打ち合わせや反省会、防災訓練など、地域の課題についても話し合っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加いただき、萩地域へのグループホームへの理解を広げる協力をいただいています。介護相談員の方の訪問があり、話しを聞いていかれます。	地域包括支援センター主催の地域ケア会議には統括リーダーが出席し、医療機関とも連携し情報交換をしている。介護認定更新調査の際には利用者の様子を伝えている。3ヶ月に1回介護相談員が訪れ、何かあれば話し合っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間就寝前以外は施錠はしていません。全ての職員が、目配り気配りで安全を確保しつつ自由に生活していただけるような支援を行っています。	日中は玄関の施錠はしておらず、目配り・気配りで利用者の希望に沿い支援している。利用者の「うちに帰りたい」という言葉から、その時々を察し一緒に歩いたり、家族の協力を得ることもある。法人の全体会議で年1回は身体拘束についての研修が実施され、参加出来ない職員にはホームで伝達研修をし拘束をしないケアに努めている。	

萩・曲尾グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての勉強会を行い、虐待について理解を深め遵守するよう努めている。法人全体としても職員全体会議を通じ、アザレアン宣言の読み合わせを行い日頃のケアについて振り返る機会を設けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に成年後見制度を利用している方もいらっしゃる、後見人の方の役割、必要性については理解できていると思う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の内容について時間をとって説明している。利用料金や起こりうるリスク、重度化や看取りについての対応方針、医療連携については詳しく説明し同意を得るようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には、来所時や電話などでご意見やご要望を言ってもらえる雰囲気づくりに留意している。又、家族会でもお話を伺うようにしたり、介護相談員の訪問もありご利用者が気軽に外部の方に相談できるように配慮しています。	利用者の半分ぐらいは自らの言葉で自分の要望を伝えることができる。難しい方でも職員の問いかけに対し何らかの形で意思表示をしている。家族の来訪は週1~2回、年数回など家族の状況によって違うが、来訪の際には意見・要望を聴いたり、サービス内容の提案について家族の意向を確認している。年3回、同じ法人の3グループホーム合同の家族会があり、出席した家族から「落ち着いて生活していて安心した」などと利用者の状態についてゆっくりと話す機会もある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者はスタッフの意見や提案を聞くように心がけている。日々の会話からも感じ取れるよう話を聞くように心掛け、ご利用者との日常的な関わりの中から生まれる、職員の気付きやアイデアは積極的に取り入れています。	法人全体会議、グループホーム部会、ホームのカンファレンスが月1回ずつあり、自由に意見を出し合っている。新しい試みとして、カンファレンスの前に一人ひとりの職員が気づいたことをメモに記入し、その内容を皆で確認したり共有し、サービスの向上につなげている。職員は、年1回、統括リーダーとの面接があり、健康状態や仕事内容、勤務形態など、いろいろな相談や意見を伝えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は個人面接を行い個々の実績、悩み等把握するようつとめています。健康診断等心身の健康を保つための対応もしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体会議が毎月あり、施設内研修会も実施されている。グループホーム会議でも毎月違ったテーマで勉強会が行われ職員の学ぶ機会を多く作れるように努力している。外部の研修会も参加できるように努めている。		

萩・曲尾グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームとの連絡会があり、相互に訪問して共にサービスの質を向上する活動や勉強会ネットワークづくりを行っている。親睦会も行われ、同業者との交流は盛んに行われている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用について相談があった時は、必ずご本人とご家族に何回かお会いして生活情報や心身の状況、これからどのようにしていきたいのかご希望を聞くなどして安心が得られるように配慮しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでのご家族の苦労や今までのサービスの利用状況など、これまでの経緯についてゆっくり聞くように努めている。相談にいらしたご家族の立場に立ってしっかりと話を聴き、気持ちを受け止めながら信頼関係を築くよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時ご本人やご家族の思いや状況を確認し体験できる状況であれば体験していただいている。利用する状況になれば必要なサービスにつなげるようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側される側の関係でなく一緒に暮らし喜怒哀楽を共にする家族のような関係でありたいと考えている。出来ることに着目し得意な事を楽しみながらやって頂きよい関係作りに努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	折に触れ電話やお便りなどで現状をお知らせしたりご相談にのっていただいたりして関係を築いている。家族会やグループホームの行事にもお誘いし交流の機会を設けています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族が訪れたり、一緒に外出や外泊をしたり、地域の馴染みの店に買い物に出掛けたり、地域の行事に参加して出来るだけ関わりが持てるように努力しています。	親戚やいとこの来訪がある。正月には家族と外出したり、家人の来訪により仏壇にお線香をあげたいと希望され、自宅に手を合わせに出かける利用者もいる。	

萩・曲尾グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆で楽しく過ごす時間や気の合う方同士で過ごす時間を作るなど関係が上手くいくように努めている。心身の状態や気分が日々変動するのでトラブルが生じることもあるが、原因を探りそのような状況にならないように支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されると疎遠になりがちだが、お亡くなりになった方のご葬儀や新盆にはお参りさせて頂くようにしている。また、長期入院等により退居された方に面会に行ったりと良い関係が継続できるよう努力していきたい		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中でゆっくり話を聴き、把握に努めている。言葉や表情からその真意を推し量ったりそれとなく確認をするようにしている。ご家族からも情報を得るように努めている。	一人ひとりの利用者に対して、家族の写真や実家の風景など、興味のある話題から話をつなげ思いを聴けるよう取り組んでいる。職員が余裕をもって接することで利用者から感謝の言葉が聞かれるようになるなど、職員自身が利用者や過ごす時間を振り返り、カンファレンスで話し合いながら意向の把握に努めている。思いを言葉で表すことが難しい利用者が多くなっているが、支援の際には一つひとつ声掛けし確認しながら進めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時にご家族から情報を頂いている。その方にとってのこれからの暮らしは今までの暮らしの延長と捉えて、必要な情報の収集に努めている。入居後も機会のあるごとにお聞きしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	昨日できたことが今日出来るとは限らなく、また出来る日もあるかもしれないと、日々その方の心身状態を把握し、職員間の情報交換し、一日を過ごしていただいています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族には日頃からの関わりの中で、思いや意見を聴き反映させるようにしている。ご本人が出来ること、やりたいことに着目して介護計画を作成しています。	本人や家族の意向を基に計画作成担当者が職員の意見を加えながら作成し、3ヶ月に1回モニタリングし、現状に合っているかを見直している。家族に計画内容について説明し承も頂いている。利用者の心身の変化に合わせ、必要があればその都度見直し、終末期なども現状に合わせた計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録はお年寄りの状態の変化や日々のケアでの気づき、出来る事、食事量や水分量の記録を行う事で、スタッフ間の情報の共有化を図っている。個別記録をもとに介護計画の見直し評価を実施している。		

萩・曲尾グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問看護ステーションとの契約により重度化や、終末期の対応が可能である。本人や家族の意向に沿えるように努力している。通院等必要な支援は柔軟に対応している。訪問歯科診療を利用している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々のご協力をいただき、地域の行事に参加したり、馴染みのスーパーに買い物に出かけたりしています。小学校の児童との交流しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後も主治医の変更を進めることはなく、ご本人やご家族のご希望に応じて対応しています。訪問診療に来ていただくケースもあり医療機関との連携もとれています。	本人や家族の意向によりかかりつけ医を決めている。協力医がかかりつけ医となっている利用者は、3週に1回訪問診療を受けている。他の医療機関での受診については家族の付き添いを基本としているが、依頼により職員が支援経過がわかる資料を持参し日頃の様子を医師に伝え、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションの契約に基づき、日頃の健康管理や医療面での相談、助言対応を頂、日常的に連携がとれている。24時間相談できる体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはなるべく多く見舞うようにし、病院側、ご家族との情報交換や意見交換を行いながら早期退院に結びつけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴う介護についての同意書で指針の説明をし同意をいただき、ご家族、医師、看護師を交えた話し合いを行いご本人やご家族のご希望やお気持ちに沿った方針で支援を行っている。随時状態の変化をお伝えし相談、意思確認しながら取り組んでいる。	出来るだけ本人・家族の意向に寄り添った支援を提供しようと思いを確認している。昨年までに10人以上の看取り介護を経験しており、昨年4月には入院先で「ホームに帰りたい」と利用者が希望され、家族も本人の気持ちを尊重し、医師、訪問看護師と連携しながら共に看取り支援を行い、他の利用者も一緒に最期のお見送りをしたという。居間の仏壇には今までお別れをした利用者全員の写真が飾られ、その利用者の笑顔の写真も仲間入りした。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が、消防署の協力を得て全体会議で救急救命法の講義を受け対応できるように努めている。緊急連絡網や対応マニュアルを整備し周知徹底を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を行っています。地域の方、ご近所の方にも呼びかけ参加いただいています。萩自治会の防災訓練にも参加しています。	隣接のデイサービスと合同で年2回消防署に計画書を提出し、地域の役員や近所の方の協力を得て実施している。夜間想定防災訓練も実施しており、先ず、協力者を呼ぶことを優先している。今後、地区消防団の方の協力が得られるよう、運営推進会議や区の会議等で話し合う予定になっている。災害時の食料品や介護用品は法人本部に準備されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お年寄り1人ひとり大切に考え、その人に合った声掛けと対応を心掛けています。ご本人の自尊心を大切に言葉掛けをするように心がけています。	呼び方は敬意を込め名前に「さん」を付けており、利用者一人ひとりに合わせて言葉がけをしている。特に排泄の支援では自尊心を傷つけないように配慮しながら他の利用者に分からないようにしている。利用者間の会話の中で、他の人があまり聴きたくない内容を話されている時には職員が間に入り、プライバシーを守るよう支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お年寄りの意思を確認し、希望されないことは無理強いすることの無いようにしています。言葉では十分に意思表示できない場合でも、表情や反応を汲み取り自己決定できるように支援します。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お年寄りの意思や希望を大切にしています。お年寄りの希望を最優先にするように、ひとり一人その日、その時の本人の気持ちを尊重し、関わりを大切にしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の生活習慣や好みに合わせ身だしなみは大切に考えている。ご家族や職員が床屋さんしています。生活習慣や季節、好みにあわせてその人らしいおしゃれや身だしなみができるようにしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い物に出かけたり、一緒に作ったり、盛り付けしたり、食事を大切にしています。職員も同じテーブルを囲んでたのしく食事できるようにしています。	介助が必要な利用者は半分ぐらいで、ミキサーやとろみをつけて食べやすくしている。出来る利用者は買い物、野菜の皮むきや食器洗いを職員と一緒にやっている。献立はその日の職員が利用者希望を聞きながら決め、近所から頂いた野菜などを使って調理している。おはぎの好きな方が多く、誕生日の日に希望される利用者もいる。また、誕生日にはケーキや好きなものが食卓に並び全員でお祝いしている。昨春秋、近所の方に柿を持ってきていただいたので、利用者と職員で干し柿と一緒に作ったという。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	自由に好きなものを楽しめるように配慮している。体調を崩されたりレベル低下の為、食事が十分に摂れない方には、食事チェックを細かく行い情報や気づき、アイデアを出し合いその方の心身の状態が良好に保たれるように支援しています。		

萩・曲尾グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1人ひとりの習慣や意向をふまえ、個別に働きかけを行っている。、出来ない方に関しては本人に応じた口腔ケアを行っている。また、訪問歯科もはいつている。夜間は義歯は義歯洗浄剤につけています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご自分でトイレに行けない方もトイレ誘導をし、出来るだけ清潔に過ごして頂けるようにしています。自立の方でも自尊心を損なわないよう関わらせていただきます。	利用者の半分ぐらいは昼夜ともに、自立または一部介助で、パットやリハビリパンツを使いながらトイレで排泄している。立位がとれる方についてはできるだけトイレでの排泄を支援している。自室にポータブルトイレを置き使用している利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちな方に限らず十分な水分補給と、野菜中心の食事提供をしている。水分の摂取と繊維質の食べ物、野菜が多く取れるようにしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望があれば毎日でも入浴して頂けます。好まない方は、楽しく入れるような声かけなど工夫しています。ターミナル期のかたもグループホームでゆっくり入浴していただいています。	利用者の希望を聞き、週2回(リフト浴の利用者は週1回ぐらい)は入浴できるよう支援している。入浴を拒む利用者に対しては、言葉がけを工夫したり、日にちやタイミングを変えて誘っている。職員は入浴時の1対1で関わる時間を大事にしており、ゆっくり話を聴くようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとり休みたい時間に就寝しています。日中、眠い時には好きな場所で休んでもらえます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	すぐに確認出来るようになっていきます。薬は1回分ずつトレイに出し、飲み忘れの無いように日付けを記入しています。職員間で声を掛け合って誤薬無いように確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中で出来ることはその時々心身の状態、体調に合わせて、その方の楽しみとして無理なくやっていただきます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自宅や馴染みの場所へ外出しています。地域の行事、小学校、保育園などの行事にも希望を伺いながら出かけています。四季折々に遠出することもあります。	季節を肌で感じられる環境を活かして、天気の良い日には散歩や花見、地元真田のお屋敷公園にツツジを見に行くこともある。保育園や小学校から運動会、音楽会などのお誘いがあり、行ける利用者は送迎車を利用して出かけている。利用者から希望があれば、実家の訪問や買い物に家族または職員と外出できるよう支援している。	

萩・曲尾グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買いたい物があれば、自分で財布を持ち、買物に出かけ支払って頂く事も出来ます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由にかけていただけます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾り、くつろげる環境づくりをとめています。居間と食堂が同じ空間であるため、広すぎる空間を区切る工夫が課題です。	居間兼食堂は大きな窓から明るい陽が差し込み、すぐベランダに出られるように造られている。居間の一角に仏壇が置かれ、今までお別れした利用者の写真が飾られ、いつでも手を合わせることができる。ソファや椅子が随所に置かれくつろぎのスペースとなっている。全館床暖房でエアコンも設置されており利用者は快適に暮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事席はほぼ固定化しており、そこが一人ひとりの居心地の良い場所になっています。テレビを見たり、外の景色を見ながら話が弾みます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた寝具や家具、大切にしていたものなど入居時にお持ちいただいています。家族の写真を飾っている方もいます。	居室にはエアコンと押し入れが備え付けてあり、そのほか、ベットやタンス、鏡台等、自宅で使い慣れたものを持ち込み使用している。家族の写真や絵なども飾られ温かい雰囲気づくりがされている。寝たきりの利用者の居室の入口には暖簾が掛けられ、プライバシーを守りながら、生活のにおいや音を感じられ、馴染みの人がすぐそばにいるという安心感を持ていただけるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人がわかるように配慮し、使い勝手良く、出来るだけ自立した生活が送れるように支援しています。		